

筑波大学へのアクセス | Access

◎つくばエクスプレス

- 「秋葉原駅」から「つくば駅」まで最速45分
「つくばセンター」から「筑波大学中央」行きバス(10分)または「筑波大学循環(右回り)(左回り)」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

◎高速バス

- 「東京駅八重洲南口」から「筑波大学」行きバス(約75分)
- 「東京駅八重洲南口」から「つくばセンター」行きバス(約65分)
- 「つくばセンター」から「筑波大学中央」行きバス(10分)または「筑波大学循環(右回り)(左回り)」バス(10-15分)「第一エリア前」下車

◎JR常磐線

- 「ひたち野うしく駅」東口バスターミナルから「筑波大学中央」行きバス(40-50分)「第一エリア前」下車
- 「荒川沖駅」西口バスターミナルから「筑波大学中央」行きバス(30-40分)「第一エリア前」下車
- 「土浦駅」西口バスターミナルから「筑波大学中央」行きバス(35-40分)「第一エリア前」下車



筑波大学・社会学類について

社会学類と関係する大学院

社会科学と関係する大学院が筑波大学には多数設けられており、大学院に進学する学生も増えています。社会学類と最も密接な関わりを持つものとして人文社会科学研究群（国際公共政策学位プログラム、国際日本研究学位プログラムなど）があり、その他に生命地球科学研究群、人間総合科学研究群、システム情報工学研究群、ビジネス科学研究群などがあります。

法学分野では、東京大塚に、社会人を対象とした法科大学院（ロースクール）が設置されています。

社会学類を卒業後、上記の大学院を経て、あるいは他大学の大学院（ロースクールを含む）を経て、大学やその他の研究機関、行政機関、法曹界、シンクタンク、マスメディアなどで専門知識を生かし研究を続けることが可能です。そうした多くの先輩が活躍しています。

社会学類は、社会科学を総合的に教育することを目的とし、同時に専門の内容を深めるために3～4年次は社会学・法学・政治学・経済学の4主専攻に分かれます。他の大学に当てはめて言えば、法学部（法律学科・政治学科）、経済学部、社会学部（ないし文学部社会学科）にそれぞれ所属しながら、他学部（他主専攻）の勉強をすることも可能であり、かつ必要というわけです。

人間はともすると、「深ければ、狭く」「広ければ、浅く」なりがちですから、ひとつの主専攻を深く、かつ他の主専攻を広く勉強することは、決して容易なことではありません。しかし、現代の複雑な社会問題はそのような勉強を要求していますし、またそれに応える勉強は楽しいものです。

たとえば、主専攻分野の勉強を深めるために、2～4年次においては、少人数形式の入門演習や演習（ゼミナール）が設けられ、活発な討論と深い研究の「場」となっています。また、指定の「教職科目」を修得することにより、教員の資格が得られます。社会学類で取得できる主な免許状（科目）は高等学校1種（公民）です。

このほか、学生が生きた学問を体感できるように工場見学や施設見学を行ったり、全国的にも珍しい裁判員制度に対応した模擬法廷教室で裁判実務の講義を行ったりしています。

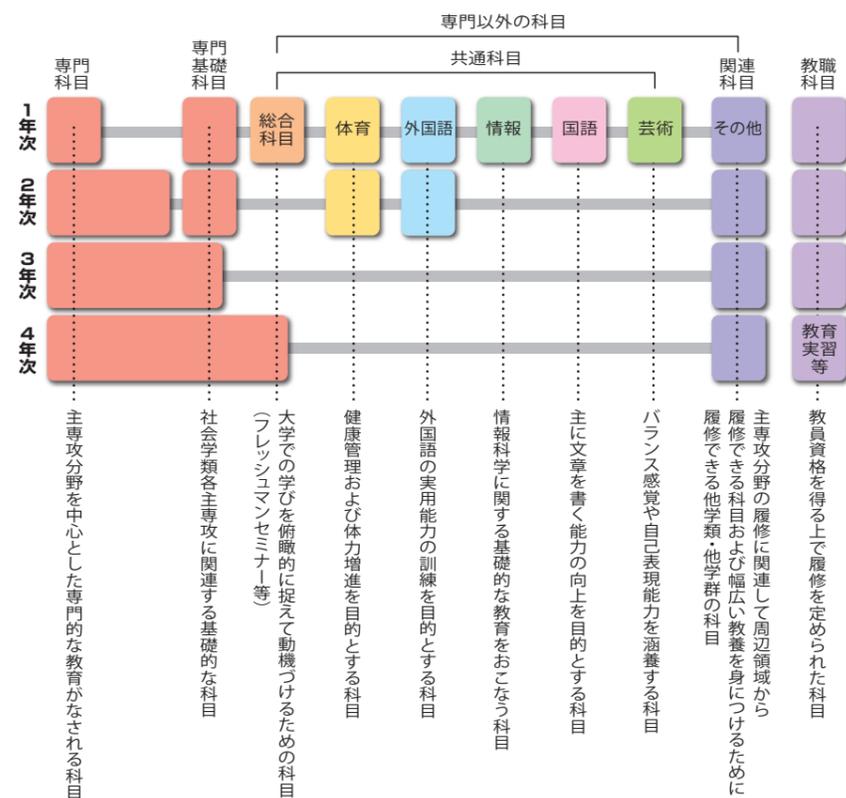
Curriculum

カリキュラム

筑波大学の授業は、従来の大学に多く見られるような教養課程と専門課程という段階的な区分を設けず、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に総合的に提供しています。

したがって、学生は、1年次から専門分野の学問に触れることができ、また必要と興味とに応じて他の幅広い学問分野からも知識を吸収することができます。4年間という期間を計画的に、また自らの関心にしたがって組み立てていくことによって、高校時代には味わうことのできなかった学問の奥深さと面白さを、きっと知ることができるでしょう。

授業は、「専門科目」、「専門基礎科目」、「共通科目」、「関連科目」に大きく分けられます。このうち、「専門科目」では各主専攻の専門分野に関わる知識を、「専門基礎科目」では専門分野に関連する社会科学の基礎的な知識を、「共通科目」では体育、外国語、情報、国語、芸術などを、「関連科目」では専門以外の幅広い教養を学びます。



ようこそ社会学類へ

社会学類長 明石 純一

社会学類は、私たちが生きる社会を多角的に認識し、総体として把握するための能力を身に付ける環境を提供しています。社会学類は四つの主専攻、すなわち社会学、法学、政治学、経済学から構成されています。その個々の学問のルーツや基礎的な考え方を知ることから、社会学類での学びが始まります。社会科学の幅広い思想や理論に触れ、分析の方法を知り、研究実践への準備をまずは進めるのです。異なる学問を横断的に学ぶこと、月並みな言葉で表せば「学際性」を重んじることの重要性は、言うまでもありません。隣接しながらも性格を異にするディシプリン（専門分野）に根差した事象の見方、語り方を覚えることは、極めてエキサイティングで高度な知的体験であることを、私は強調します。

挙げればきりがなほどの未解決な社会的課題を抱えるに至った現代は、先行きも不透明な時代です。それらの問題を構造から解明し、さらには解決法を見出したいのであれば、特定の

領域に偏った知識では足りません。社会、法、政治、そして経済は、互いに規定し、介入し合っています。さらに私たちが生きる社会では様々な価値観や志向性が混在し、せめぎ合っています。この結びつきと多様性はもはや自明であり、あまりに常識的といえますが、その常識をまるごと引き受け、諸問題に正面から挑む知性なくしては、今日の社会を公正に捉え、今より生きやすい将来の社会を構想する道は拓けないのではないのでしょうか。それは、現状に追従しない健全な批判精神と、更新を躊躇しない柔軟な思考回路を培うことでもあります。

社会学類は、社会の理解に対するこのような基本姿勢を尊重しながら、学生みずからが望む専門的な能力の獲得を求めます。社会学類が重きをおく学際性の強みは、固有のディシプリンを高い水準で体得してこそいかに発揮されるのであり、本学類が目指すところです。このタフな学びの場に率先して挑戦してくれる若者を、社会学類は歓迎します。

目次	筑波大学・社会学類について	1
	カリキュラム	1
	各主専攻の紹介 ● 社会学主専攻	2
	● 法学主専攻	4
	● 政治学主専攻	6
	● 経済学主専攻	8
	4主専攻から	10
	卒業生の声	12
	卒業生の進路	14
	「社学生」の生活	16
	入学案内	17



社会学主専攻

社会学への招待

現代社会の様々な出来事は、思いがけないところで私たちの社会生活に変化をもたらしています。変わりゆく企業組織と家族関係の揺らぎ、新しい宗教現象と若者文化、外国人労働者の増加と地域社会、多様化するライフスタイルとメディア、例を挙げればきりがありません。経済、政治、文化、技術など一見ばらばらに見える社会の各領域も、実は相互に深く関係し合っており、そうした複雑な仕組みに眼を向けることなしには、現代社会を理解することはできません。

社会学は、こうした社会の各領域の成り立ちやそこに発生する問題を、特に私たちの日常生活のレベルから解明すると共に、さらに異なる領域の間に広がる見えない関係の連鎖を、人間や組織・集団の観点から自由に明らかにすることを、課題としています。本学の社会学主専攻では、主として社会問題論（国際移動・犯罪・逸脱行動・労働・戦争）、文化論（スポーツ・都市・メディア・知識・歴史）、医療・福祉論（老いと病い・社会保障・介護）を専門とするスタッフが、様々な学生の関心に対応した社会学の「フィールド」を整備しています。（下記の「卒業論文タイトル抜粋」を見てみてください）皆さんも、私たちが用意したこのフィールドで自由に駆けまわってみませんか？

教育方針と特色

社会学主専攻の科目は、社会学の基礎的な概念や理論を学ぶ社会理論、データを収集し分析するための方法を学ぶ社会調査・社会データ分析、そして家族や地域、産業、福祉、メディアなど個別分野についての社会学に大きく分けることができます。本主専攻では、単に社会理論を教育するだけでなく、現代社会のさまざまな問題に対して自ら頭と足で取り組む能力を養成するため、社会学研究法および社会学演習（ゼミナール）と社会調査実習を開講しています。また国際的な視野から日本社会を学ぶことも重視しています。学生は、こうした学習の成果をまとめる機会として、卒業論文に取り組むことになっています。

将来の方向と進路

マスコミ・製造業・金融業・調査研究機関・サービス業などの民間企業や公務員など、きわめて多様な分野へと卒業生は就職しています。また、希望を生かして教員になるケースもあります。さらに、人文社会科学研究群（国際公共政策学位プログラム社会学分野）をはじめとする大学院に進学することにより、より専門的な研究を続ける道も開かれています。

※2019年度以前に撮影された写真を含んでいます。



専門科目の授業風景



つくば市子育て支援総合センター



秋葉原見学（社会学演習）

卒業論文タイトル抜粋（令和3年度）

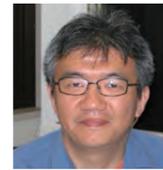
- 新規大卒Uターン就職者のライフストーリー ●筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者と介助者における相互認識について
- ヒットソングの変遷にみる「流行」の社会的考察 ●戦隊ヒーロー／ヒロインがジェンダー観に与える影響
- 在日南米系外国人生徒の大学進学に向けたロールモデルの所在と役割 ●女性自衛官にみる現代社会のジェンダー規範
- 市民活動にのってのクラウドファンディングという経験 ●若者の社会貢献意識



いがらし やすまさ
五十嵐 泰正

「都市社会学」「地域社会学」「社会学演習」「社会調査実習」▶【都市社会学／国際人口移動論】▶「大学の中

に引きこもっている社会学者に、社会の何がわかるんだ」ごもっとも。否定はしません。「社会は社会に出てから肌で覚えるから、社会学なんていらないよ！」それはどうかな？「社会」には、たくさんのお社会>があります。油の匂いの漂う工場にも、深夜のファミレスにも。図書館でちょっと時代を遡れば想像もつかない社会>があるし、海を渡ればちっぽけな予測を軽く裏切る社会>が待っています。そうそう、大学もひとつの社会>です。「社会人」になってから、安易に「社会」がわかった気になって失敗しないために、さまざまな社会>にまみれながら、いくつもの社会>の成り立ちを自分の頭で考えておく。それが社会学主専攻で過ごす大学生活です。



うらの エジソン
TISS Program:

Social Issues in Contemporary Japan, Comparative Society, Public

Policy, Transnational Social Policy など▶【国際社会学／国際社会政策】▶移住労働者の増加や企業の国際展開などにより、国家を単位とした公共政策が社会保障、雇用、所得再分配などのニーズに応えられなくなってきています。こうした「矛盾」を念頭におきながら、社会政策のグローバルな枠組みについて一緒に考えましょう。



おくやま としお
奥山 敏雄

「組織社会学」「社会学基礎論」「社会学演習」▶【組織社会学／社会システム論／医療社会学】▶教科書に

書いてあることがすべて正しいと思わない態度を身につけることが大切です。社会についてはいろいろな見方や考え方が成り立ちます。様々な社会認識に対して、自分なりの距離を取れるようなタフさが必要なものであって、唯一の正しい見方を教えてくれと求めることは、安住できる宗教を求めるようなものです。大学に入ったら受験の思考回路を早く捨ててください。



かつらやま やすお
葛山 泰央

「知識社会学」「社会学演習」▶【言説分析／知識社会学／フランス政治哲学】▶社会学という学問的な営

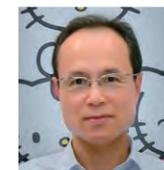
み特徴付けているのは、さまざまな社会（的事象）をその内部から観察することの二重性、つまりは「社会への視線」と「社会からの視線」とが互いに織り成す、ある種の往復運動にほかなりません。その意味で、社会学とは、近代社会の自己観察の営みであるともいえます。私たちの生きる社会への、私たちの生きる社会から向けられる、こうした視線のダイナミズムを、あなたもぜひ一度体験してみませんか。



すずき あやか
鈴木 彩加

「ジェンダー社会学」「社会学演習」▶【ジェンダー論／社会運動論／家族社会学】▶女

をばなぞ軽むる女より生れぬ人のあらじと思ふに—この歌は今から100年以上も前、女性に参政権がなく、教育を受ける機会も限られていた時代に、茅野雅子という歌人が詠んだものです。ここで鋭く提起されている問いに、みなさんならどのように答えるでしょうか。現代においてもなお、社会には性別を理由とした様々な格差や不平等が存在し続けています。それらを研究するのが、ジェンダー論という学問です。授業ではジェンダーというレンズをととして社会をみつめ、考える力・表現する力を身につけていきます。



どい たかよし
土井 隆義

「現代社会論」「犯罪社会学」「社会学演習」▶【犯罪社会学／法社会学／逸脱行動論／社会問題論】▶

社会生活における様々な病理現象を素材に、社会学的なものの見方について考える授業を行なっています。社会学というパースペクティブから様々な病理現象をながめると、社会と私たちとの関りについて、今まで気づかなかった意外な側面が見えてきます。重大な社会問題と思われるものが、じつは別の側面で現代社会のシステムを支えていたり、あるいは逆に、望ましいと思われていた理念が、その裏側では病理現象を招いていたりすることが分かってきます。授業をととして、社会病理をめぐる従来の常識を突き崩す面白さを味わうとともに、社会の中で私たちが生きていく意味についてもぜひ考えてください。



ファン スンヒョ
黄 順姬

「社会学演習」「調査実習」「スポーツ文化論」「教育社会学」▶【教育社会学／文化社会学／スポーツ社

会学】▶社会学の演習では社会学理論と、フィールドでの調査方法を学び、関心のあるテーマで論文を作成します。たとえば記憶の社会学では、記憶の空間、時間、身体論を検討し、同窓会、スポーツ、整形・エステなどの分野からテーマを設定し、ゼミ論を完成します。調査実習では、直接フィールドに出て、たとえば、中等学校の学校現場、同窓会、または新宿大久保コアタウン、秋葉原などで調査し、報告書を完成します。社会学研究の面白さを堪能してください。



もり なおと
森 直人

「労働社会学」「社会学演習」▶【労働社会学／社会階層論／戦後日本社会学】▶「学

生時代の私は、教育と格差・不平等の世代間連鎖の問題を考えるとところから社会学の世界に入りました。講義のなかで示される「通説」に納得できない違和感を何とか言葉にして、授業が終わったあとの教壇にいた教師に話した覚えがあります。教師の答えは、「その問題はじつはまだ十分よくわかっていないのですよ、ぜひあなた自身で明らかにしてください」というものでした。不思議な解放感とともに、「これが大学か」という思いを抱いた最初の記憶です。すでに明らかにされていることを鵜呑みにするのではなく、新しい疑問を見出し、答えを模索する。その自由を、学生のみならずともに体感していきたいと思います。

*上から氏名▶「担当授業」▶【研究分野】

法学主専攻

法学への招待

現代社会の複雑多岐な社会生活は、様々な法律や制度によって運営されており、人としてそこに生きる以上、好むと好まざるを問わず法にかかわらざるを得ません。新聞を開いてみれば、個人のプライバシーとマスコミの取材の自由の問題、少年犯罪、児童虐待の増加等、「法的」な問題を毎日のように目にします。また、国際化の進展にともなって、外国企業の合併や吸収、国際貢献など、外国とのあいだで法的な解決を迫られる場面も増えていきます。法律というと、一見、日進月歩の科学技術とは異なり、固い、旧態依然というイメージがあるかも知れませんが、決してそのようなことはありません。証券取引の規制、ソフトウェアやバイオテクノロジーの保護や規制、ネット社会特有の諸問題への対応等、新たな法現象が生じてきたこともあって、情報化・国際化の今日、法学には、時代の変化に柔軟に対応することが求められているのです。

教育方針と特色

法学主専攻では、ひろく法にかかわる基礎的な理論・システムの把握を教育の中心においており、そうした教育を通じて、幅広い法的なものの見方、考え方を養うことを主眼としています。基本的な実定法を通じて、現実の法体系を学ぶことで、長い歴史のなかで培われた人間の叡知の豊かさを理解し、その社会的役割を適正に評価することが、なによりもまず求められます。

法学主専攻のカリキュラムは、様々な実定法から、政治学・経済学・社会学・人文関係系統にいたるまで、幅広いものを含んでいますが、そうした科目の学習を通じて得られる、社会生活全体を広い視野で考察する適切な観点と判断力が、まさに法的なもの見方、考え方の現れなのです。様々な法分野の講義から、少人数形式のゼミナールや、卒業論文執筆（任意）にいたるまで、法的議論の「場」は多々用意されています。

将来の方向と進路

卒業生の就職先は企業・団体など多岐にわたり、国内外で広く活躍しています。また、法科大学院、研究大学院や政策大学院に進学した後、弁護士や国家公務員として活躍している卒業生もいます。

※2019年度以前に撮影された写真を含んでいます。



演習の風景



専門科目の授業風景



模擬法廷を使った授業風景

演習テーマ・卒業論文タイトル抜粋（令和3年度）

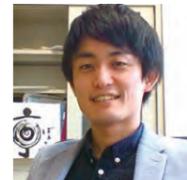
- 大学対抗交渉コンペティション（INC）の問題研究 ●憲法論文作成講座 ●約120年ぶりに大改正された債権法の判例研究
- 性犯罪に関する立法論・解釈論上の問題 ●現代人権論やリベラリズム思想史の法哲学的研究
- 民法の問題点の検討 ●犯罪少年の人権と少年法の在り方についての検討—障害者の人権の観点から
- The Constitution of Japan and “Atoms for peace”



あきやま はじめ
秋山 肇

「憲法I」「憲法II」「比較憲法」「憲法演習I」「憲法演習II」▶【憲法/国際法/国際政治/平和研究】

▶グローバル化が進む今日において、私たちが抱える問題は、より一層複雑化し、多様な視点から理解・分析・解決策の模索を行う必要があります。社会学類は、問題を多面的に捉え、その解決策を考えたい方にぴったりの学びの場です。例えば、法や憲法が解決できる問題がある一方で、社会学、政治学、経済学など様々な学問領域を駆使することで、法の限界を克服し、より良い解決策を導くことが可能になることもあります。素晴らしい仲間（=学生、教職員）とともに、国内外の幅広い問題について多角的かつ批判的に議論し、日本の、そして世界の未来を創っていきましょう！
IMAGINE THE FUTURE together!



きやま こうすけ
木山 幸輔

「法哲学」「法哲学演習I」「法哲学演習II」▶【道徳・政治・法哲学/公共哲学】▶「法学」って、とつ

ても「堅そう」ですね。噛むと歯が折れちゃいそう。だから、柔らかくアプローチしてみるのが良さそうです。本学にはそのきっかけや場所が多くあるはず。大事な柔らかさは、対話の中で、自分の考えを生成・変化させていく、そういう態度です。哲学的に考えてみたり、分野横断的に本や友達、教員と対話したり、サークル、バイト、生活の中で考えていく。そうした中で、「私が考えたいのはこれだ。で、こういう風に考えられるかな（ただし暫定的）」という答えを見つけれられるかもしれません。美味しく咀嚼できたときの喜びは保証します（こんなの食べていいのかな、と思うかもしれませんが）。皆さんと充実した時間を過ごせますように。



さい こんち
蔡 芸琦

「刑法総論」「刑法各論」▶【刑事実体法】▶刑法199条によれば、「人を殺した」者は、殺人罪に

問われます。たとえば、ナイフで人の心臓を刺す行為は、「人を殺す」行為にあたると思われます。では、ある飛行機には時限爆弾が仕込まれていることを知りつつ、その飛行機の搭乗を勧めた行為は、「人を殺す」行為にあたるのでしょうか。不注意で車を他人に衝突させ、人に重傷を負わせたにもかかわらず現場から逃走する行為は、「人を殺す」行為にあたるのでしょうか。言葉には、たくさんの解釈の可能性があります。法の解釈の楽しさを実感できる分野の1つが、刑法学です。



ねもと のぶよし
根本 信義

「法学概論」「民事訴訟法A」「裁判実務演習」▶【裁判実務/法教育】▶4年間

はあつという間に過ぎてしまいます。知的好奇心を發揮して、興味をもったことには積極的にトライしてみてください。また、興味あることを見つげるためにも読書は大事です。手始めに新書から読み始めてはどうでしょう。法とはそもそも何なのかを知りたい人には、橋爪大三郎「人間にとって法と何か」（PHP新書）や木村草太「キヨミズ准教授の法学入門」（星海社新書）を、社会科学の新しい方法論に触れたい人には、亀田達也「モラルの起源」（岩波新書）を、相手を言い負かす議論に疑問を持った人には、苦野一徳「はじめての哲学的思考」（ちくまプリマー新書）を勧めます。興味をもったら、さらに専門書へとステップアップしてください。



はぎわら かつや
萩原 克也

「商法I（総則・商行為）」「会社法I」「会社法II」「金融商品取引法I」「金融商品取引法II」「有価証券法基礎」「電子記録債権法」▶【運送法（海上・航空）/有価証券法】▶商法の分野は複雑に見える部分もありますが、基本は「合理性」を追求した「実用的な制度と解釈」です。マニュアル思考とは違う法的なもの見方・考え方、論理性を習得し、社会にでたら起業家になったり、専門知識を生かして主体的に生きていこうと考えている方を歓迎します。まずは堅苦しく考えずに飛び込んでみてください。

ほしの ゆたか
星野 豊

「契約」「債権総論」「信託法」▶【民法/信託法/金融法】▶少なくとも学群生である間は、主専攻とする分野や将来の希望職種にとらわれることなく、幅広く学び、自由に考えることを心がけてください。興味を持つ対象が社会科学の範囲を超えて、他の領域に及んでいくことも、全く差し支えないと思います。逆に言えば、「自分はこの分野を専門としている」ということが、「他の分野のことは分からないし関心もない」ということにならないように、十分注意してください。



みやさか わたる
宮坂 渉

「民法総則」「西洋法制史」▶【民法/ローマ法/西洋法制史】▶法学って何

だろう？法学は法律家、公務員になるための勉強？なぜ法曹や公務員になるために法を学ぶ？それは彼らが法を使って仕事をするから。なぜ法を使う必要がある？法には強制力があるから。法に従わなければ、罰や不利益を受けることになる。なぜ法には強制力がある？法は「追い詰められた最後の一人」を守るためにあるから（木庭頭『誰のために法は生まれた』朝日出版社、2018年）。虐待を受けている子供たち、冤罪事件の被告人、この社会には誰からも見放されている人がいる。そんなたったひとりを救うために、法は、他の全ての人々を法に従わせる、大きな力を持っている。でも、その大きな力が上手く使えなかったり、間違っ使われたら？だから法曹や公務員は法の正しい使い方を学ぶ必要がある。法学では法の正しい使い方を考える。ここには正解はない。でも、正解がない問題を考えるのが本当の学問だし、そういう学問ができるのが大学だと思う。

*上から氏名▶【担当授業】▶【研究分野】

政治学主専攻

政治学への招待

今日、私たちは政治の圧倒的な影響のもとに生活しています。実際、国際間でおこった一つの地域的なテロが全世界の市民をその渦中に巻き込み、政府が決定した一つの経済政策の失敗が、国民一人ひとりの生活のすみずみにまで浸透してきています。私たちが政治に関心をもたなくとも、政治が私たちをとらえてはなさないのです。

政治学はこのような政治の世界を理論的、科学的、歴史的に分析し、理解し、同時に政治のあるべき姿を科学的、思想的に考察しようとする学問です。人間・集団・社会・国家に発生するさまざまな利害の対立と解決の様相を研究するこの学問にとって、「人間」に関する多様な認識と深い洞察力は不可欠であり、そのためには、幅広い教養と専門的な知識を吸収しようとする旺盛な知的好奇心が求められます。

教育方針と特色

政治学主専攻では、政治に関する基本的な概念、理論、歴史などを学ぶ基礎的な講義、入門演習を通して、政治学的なものの見方を身につけます。そして、専門科目、専門演習に入って政治理論、政治思想、政治外交史、国際政治等、それぞれ自分の関心領域を決め、研究を深めます。

とくに演習は、少人数、自主的運営を原則とし、テキストの輪読や興味ある研究テーマについての報告、討議を行い、その成果をゼミ論文としてまとめることになっています。

演習はまた、学生の企画、討論への参加を通して自立心を育てる場であるとともに、ゼミ活動を通じて、学生同士はもとより、教員との相互親睦を深め、社会人としてのあり方を具体的に実践する機会を提供してくれるでしょう。

将来の方向と進路

就職先は、マスコミ、金融、製造、不動産、サービス業、さらに国家、地方の公務員等、多岐にわたっています。最近では、企業の総合研究所や情報関連企業に就職する卒業生も出てきています。また、大学での研究を深めるために大学院に進学する者もいます。

※2019年度以前に撮影された写真を含んでいます。



演習の風景



専門科目の授業風景



演習の風景

卒業論文タイトル抜粋 (令和3年度)

- 在日コリアンの社会統合 ●冷戦下の東西ドイツ分断におけるアメリカとソ連の対立 ●沖縄基地問題をめぐる今後の展望
- ウェストファリア的実践と主権国家の均質性 ●大学生のイデオロギー意識 ●沖縄米軍基地に対する沖縄と本土の認識の違い
- リベラリズム批判とポリティカル・コレクティブネス ●難民支援に寄与する日独の市民社会の可能性
- インターネット時代における「民主化」の失敗 -エジプトのメディア政策の変容に着目して-



あかし じゅんいち
明石 純一

「国境を越える政治」
「国際政治経済学」▶
【移民・難民研究/アジア地域の国際人口移動に関する政策分析/グローバルガバナンス】▶人(あるいは労働力)・物(商品)・金(資本)、そして情報があたかも自由に国の境界線を越えているかにも見える現代社会を、「ボーダーレス」と形容することが増えました。グローバル化により世界は「ひとつ」になる、ということも頻りに語られます。しかしそれはどこまでが本当のことなのでしょうか。そもそも「国家」、「国境」、「国籍」、「国民」とは、いかなる実体を表す概念なのでしょう。世界各国を放浪していた大学時代にふと頭に浮かんだこの疑問に取りつかれ、今もまだ回答を探している最中です。政治学を含む社会科学の習得と行動による実体験を通じて現代社会の変化と普遍性を理解すること、そのような学びの場をみなさんと共有したいと考えています。



すずき そう
鈴木 創

「比較政治学」「アメリカの政治」▶【選挙研究/議会研究】▶新聞やテレビで政治が語られない日はありません。政治についての知識やイメージを得ることはそう難しいことではないでしょう。でも、常識とされていることが本当に正しいのか、常識とされる現象がなぜ起きているのか、ちょっと立ち止まって自分の頭で考えてみてください。有名な評論家がテレビで話していることも、大学の先生が本で書いていることも、批判的に考える姿勢を身につけましょう。



せき かつのり
関 能徳

「Democratization」
「Introduction to Political Science」
「Japanese Politics」
「Quantitative

Methods for Social Sciences」(社会国際学教育プログラム)▶比較政治学/計量政治学/民主化・独裁制/選挙アカウンタビリティ▶政治学者とは一体何者でしょうか。経済学者が企業の社長でないように、政治学者は政治家ではありません(稀に政治家に転身する人もいますが)。政治学者が担う大きな仕事のひとつは、政治現象に関する既存の説明を批判的に評価した上で、まだ答えの出ない問いを発見し、それに答えることで新たな知識を生産することです。政治学を専攻する学群生は、抽象的なものの考え方を発達させることを通じて、知識のよりよい消費者になることが期待されます。とはいえ、ただの消費者であるのはあまり面白くありません。知識の生産者の側に加われたら、どれだけ気分爽快でしょうか。そのためには、常日頃「なぜ」と問い続けることです。凡庸な問いかもしれないと恐れることなく、「なぜ」と問い、答えを探し続ける4年間を過ごしてみてください。その過程で、世界の誰もまだ知らなかった答えに辿り着けるかもしれません。



たけなか よしひこ
竹中 佳彦

「日本政治論」「日本政治思想」「現代政治外交」▶【政治学・日本政治論(イデオロギーと政治意識、投票行動などの計量分析/戦後の政治外交史・思想史)】▶政治とは、あらゆる人間諸集団に見られる、人間の相互作用によって生じる現象です。それを対象とする政治学は、古代ギリシャにまでさかのぼれる学問で、経済学や心理学、社会学、歴史学などの隣接諸科学の影響を受けながら発展し、時代に応じた役割を果たしてきました。複雑な現代の諸問題を解決するために、学問はますます学際化し、総合的な視点で物事を捉えて政策的に思考する人材が求められています。社会科学を広く学びながら政治学を学べる社会学類のメリットを生かし、そのような能力を培ってください。



ちえ さいえん
崔 宰榮

「計量分析入門」▶
【計量政治学】▶社会をとりまく色々な問題に対し、自分なりの意見を持って積極的に取り組みながら、自分の価値や潜在的能力を導き出し、社会の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、という問いに答えを見つけてみませんか。



まつおか ひろし
松岡 完

「アメリカ外交史」「アメリカ外交史概説」▶
【ケネディの外交/冷戦史/ヴェトナム戦争史】▶受験勉強中の

みなさんは、世界史や日本史は「暗記科目」で、つまらないと思っているのでは?でも本当は、歴史とは推理小説のようなもの。世の中に発生した無数の出来事の中から、それぞれの目で「事実」を選び出し、独自の「解釈」を加えることで、何が起きたのか、なぜそうなったのかという「物語」をつくりあげていく作業です。20世紀とくにその後半の、アメリカ外交を軸とした国際政治史を舞台に、その面白さを一緒に味わっていきませんか。



みなみやま あつし
南山 淳

「国際政治学」「国際安全保障論」▶【国際政治理論/国際安全保障/グローバル化と国際紛争】▶「1人を殺

せば犯罪者となり、数百万人を殺せば英雄となる。数が殺人を神聖なものにするのです…」映画『殺人狂時代』(1947)の中でチャップリン演じる連続殺人犯が発したセリフです。倫理的判断はどうある、他者の生命を理不尽に奪うという意味で、殺人と戦争の分岐を犠牲者の数に求めることは一面の真理かもしれません。ただ誤解してはならないのは、大量殺戮の結果、殺人が正当化されるわけではなく、「正当」とされる目的が戦行行為における殺害を正当化するという点です。戦争の目的が正しいか否かの判断は、人によって、国によって、時代によって変わってきます。「正しい戦争」は本当にあるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



やまもと ひでひろ
山本 英弘

「政治社会学」▶【政治社会学/市民社会論/社会運動論/政治過程論】▶人々はそれぞれに価値や利益を

もっています。このような人々が社会において円滑に共同生活を営むためにはルールが必要です。また、道路や学校、病院などの施設をつくらせたり、感染症を予防したり、1人ではできないことを協力して成し遂げる必要があります。政治とは、このような集団で生活するための決定を行う仕組みだといえます。こうしてみると、政治は遠くの政治家がやっていることばかりではなく、我々の暮らしに身近なことがらとも関わりがわかります。それでは、社会についての決定は誰がどのように行っているのでしょうか?決まった事柄によって、人々はどのような影響を受けるのでしょうか?政治学を学びながら、遠そうに近い政治の世界について一緒に考えてみませんか。

*上から氏名▶【担当授業】▶【研究分野】

経済学主専攻

経済学への招待

経済学は、社会科学で唯一ノーベル賞の対象となっている学問分野です。経済学の方法は、狭い意味の経済現象の分析用具として大きな成果をあげてきただけでなく、政治、法律、労使関係、家族、環境問題、都市、教育、国際関係といった他の分野にも幅広く適応されてきました。その結果、今日では、それらの分野も経済学の重要な領域となっています。

経済学は他の人文社会科学と同様に歴史や思想を重視します。また自然科学と同様に、明確な仮定を設定し、それを客観的データを用いるなどして論理的に明らかにしていきます。

経済学は、しばしば誤解されるような、金儲けや社会の効率化の手段ではありません。それは、現代の社会問題を客観的に、そして検証可能な形で思考するために必要不可欠な手段です。

教育方針と特色

経済学主専攻では、経済学の基礎的な分析手法を段階的に学ぶことができるカリキュラムを設定しています。これに加え、理論や政策から歴史および現状分析に至る教育内容を設定することで、広い社会的関心をもちながら、現代の問題を体系的にとらえる能力の養成を目的としています。

また、他大学の経済学部と比べて教員一人当たりの学生数が少ないという特色を生かして演習（ゼミ活動）を重視しています。

そこでは、活発な議論を通じて経済学をより深く学べるよう留意するとともに、キャンパスを飛び出して工場見学を実施したり、日本銀行や証券取引所見学を実施するなど生きた経済を学ぶための実習的な取り組みも積極的に進めています。

さらに必修ではありませんが、学生生活の総決算として卒業論文をまとめることを推奨しています。

将来の方向と進路

就職先は、銀行など金融業から、製造業、マスコミ（新聞記者など）、公務員などさまざまな分野に及んでいます。また、研究者をめざして大学院に進学する人もいます。

※2019年度以前に撮影された写真を含んでいます。



工場見学（クリーンルームにて）



講義風景



横浜国立大学と合同演習後の集合写真

卒業論文タイトル抜粋（令和3年度）

- 社会的マッチング・ゲーム理論と結婚 ●格闘ゲームにおけるゲーム理論の有用性 ●ESG投資のゲーム理論による分析
- ゲーム理論と認識論 ●チケット転売のゲーム理論分析 ●不動産情報提供に関する情報の非対称性のゲーム理論分析
- ゲーム理論を用いたサッカーにおける守備戦略 ●新興国市場とグローバル経済



ひろさわ てるお
平沢 照雄
「地域経済論」「日本経済史」「日本経済論」「現代中小企業論」▶【現代日本経済史／地域経済・産業論／中小企業論】▶社会学類は、グローバルとローカルの双方の視点を兼ね備えた学生の育成を重視しています。21世紀に入り、グローバル化が至上命題のように言われてきましたが、コロナ危機に直面するなかで、改めて地域経済の重要性に注目が集まるようになりました。現代社会では、グローバル化が進めば進むほどローカルな問題の解決も同時に課題となっています。社会学類で幅広く学ぶなかで、グローバル（＝グローバル＋ローカル）な視点を身につけ活躍してくれる意欲的な学生に出会えることを期待しています。

グローバルとローカルの双方の視点を兼ね備えた学生の育成を重視しています。21世紀に入り、グローバル化が至上命題のように言われてきましたが、コロナ危機に直面するなかで、改めて地域経済の重要性に注目が集まるようになりました。現代社会では、グローバル化が進めば進むほどローカルな問題の解決も同時に課題となっています。社会学類で幅広く学ぶなかで、グローバル（＝グローバル＋ローカル）な視点を身につけ活躍してくれる意欲的な学生に出会えることを期待しています。



しのつか ともいち
篠塚 友一
「経済学基礎論」「ミクロ経済学」「産業組織論」▶【ミクロ経済学／社会的選択理論／厚生経済学】▶某大学の経済学部を受験すべきか商学部を受験すべきか迷っていたとき、当時その大学の商学部3年生であった方から、経済学部受験を勧められました。その方がおっしゃっておられたように、経済学は面白く、かつ有用な学問です。このことを深く理解するためには、最初の2年間は数学（線型代数、微積分）や論理学をじっくり学ぶとよいでしょう。

当時その大学の商学部3年生であった方から、経済学部受験を勧められました。その方がおっしゃっておられたように、経済学は面白く、かつ有用な学問です。このことを深く理解するためには、最初の2年間は数学（線型代数、微積分）や論理学をじっくり学ぶとよいでしょう。



ひらやま あさじ
平山 朝志
「経済思想史」「経済学演習VI」▶【経済思想／経済システム・文化・思想の進化と持続／日本社会】▶大学生になると、あらゆる面で、それまでと比べて自由に自分でものこを決められるようになりますし、大学を卒業すると、これほどの自由や時間的余裕は二度と得られない人が多いでしょう。入学目的の受験勉強が終わった後、自由を持ってあまじたり、自由に背を向けること（カルトにはまるなど）にならないように、何ができるか、何をしたいかを予め考えて、夢を持って志望していただきたいと思います。

大学生になると、あらゆる面で、それまでと比べて自由に自分でものこを決められるようになりますし、大学を卒業すると、これほどの自由や時間的余裕は二度と得られない人が多いでしょう。入学目的の受験勉強が終わった後、自由を持ってあまじたり、自由に背を向けること（カルトにはまるなど）にならないように、何ができるか、何をしたいかを予め考えて、夢を持って志望していただきたいと思います。



たかはし ひでなお
高橋 秀直
「現代経済史」「経済学演習II」▶【経済史／金融史】▶知識は断片的な情報を相互に関連付けて整理したものです。高校までの勉強は、他の誰かが整理した教科書や受験参考書を利用するだけでした。でも、私は、他人の視点を身につけることから一歩踏み出して、自分なりのものの見方を手にしたいと思っています。新しいことを学ぶ度に、自分がすでに知っている知識と関連付ける練習を続けています。授業を通じてその一端を伝えられれば幸いです。

高校までの勉強は、他の誰かが整理した教科書や受験参考書を利用するだけでした。でも、私は、他人の視点を身につけることから一歩踏み出して、自分なりのものの見方を手にしたいと思っています。新しいことを学ぶ度に、自分がすでに知っている知識と関連付ける練習を続けています。授業を通じてその一端を伝えられれば幸いです。



ふかい たいよう
深井 太洋
「実証分析入門」▶【労働経済学／応用計量経済学】▶経済学では人々の行動や社会の仕組みなどを論理立てて考えていきます。日々の講義だけではなく幅広い経験を通して、考えてみたい社会現象に出会うこともあるでしょう。関心のあるテーマについて、論理的な思考と自分なりの思いを持って突き詰めてみてください。学びに限界はありません、新しい知識や経験をどんどん吸収しみなさんの大学生活が豊かなものとなることを願っています。

日々の講義だけではなく幅広い経験を通して、考えてみたい社会現象に出会うこともあるでしょう。関心のあるテーマについて、論理的な思考と自分なりの思いを持って突き詰めてみてください。学びに限界はありません、新しい知識や経験をどんどん吸収しみなさんの大学生活が豊かなものとなることを願っています。



ふくずみ まさかず
福住 多一
「経済数学」「基礎経済学」▶【ゲーム理論／進化ゲーム理論】▶経済学は科学です。その体系の理論的本質の多くは、数学で記述します。これを理解するには、冷徹な論理的思考力が必要です。ただし科学的に解明する対象は、社会現象とそれを構成するヒトです。これを理解するには、社会やヒトに向けた温かい眼差しと豊かな心が必要です。このように、経済学は理系・文系の境界が無い新しい総合科学です。この若い科学を意欲的な皆さんと成長させたいと思っています。

経済学は科学です。その体系の理論的本質の多くは、数学で記述します。これを理解するには、冷徹な論理的思考力が必要です。ただし科学的に解明する対象は、社会現象とそれを構成するヒトです。これを理解するには、社会やヒトに向けた温かい眼差しと豊かな心が必要です。このように、経済学は理系・文系の境界が無い新しい総合科学です。この若い科学を意欲的な皆さんと成長させたいと思っています。



みのわ まり
箕輪 真理
「開発経済学」「経済学演習X」▶【開発経済学／ラテンアメリカの経済／開発政策／社会開発】▶世界は大きくて私たちの知らないことは無限です。そんな世界に生まれてきた私たちは本当に幸せ。限られた時間をどう過ごすか、何を考えて、いかに生きるのか、自分の選択次第です。自分の選択に責任を持って、たくましく生きてゆけるための基礎固めをする時間、それが大学での4年間です。社会学類に入学して、勉強は本当に楽しいということを実感してもらえることを願っています。

世界は大きくて私たちの知らないことは無限です。そんな世界に生まれてきた私たちは本当に幸せ。限られた時間をどう過ごすか、何を考えて、いかに生きるのか、自分の選択次第です。自分の選択に責任を持って、たくましく生きてゆけるための基礎固めをする時間、それが大学での4年間です。社会学類に入学して、勉強は本当に楽しいということを実感してもらえることを願っています。

*上から氏名▶「担当授業」▶【研究分野】

4主専攻から

社会学主専攻 × 藤田 優香

「社会学とは何か」と聞かれたら、私は一つの答えとして「自分の色メガネを外すこと」と答えると思います。社会で起こったことを捉えるときには、人は無意識に何らかの「色メガネ」をかけて物事を見ています。それは自分のこれまでの経験や社会の雰囲気などから作られるメガネです。しかし、そのメガネを外してみると、自分が物事の一側面しかとらえられていなかったり、間違っただけの見方をしていたりすることに気が付きます。このように、社会の問題（身近な問題）に対して「本当にそうなのか？」と疑問を持ち、その背景にある社会の構造や人々の意識などをみていくこと、これが社会学主専攻で取り組んでいく学びです。

私が社会学を選んだのも、ある疑問を持ったことがきっかけでした。大学の学部を選ぶ際に、ふと「貧困問題などを抱える人はどのような生活しているのか？」という疑問が浮かび、そうした人たちがどのような生活をしているのか知りたいと思いました。

そこから社会問題を広く扱う社会学という学問を知り、現在に至ります。私は疑問を持った当初は無条件に「貧困から抜け出すこと=よいこと」と考えていたのですが、勉強をしていく中で、貧困だから生活が豊かではない、楽しくない、という考えが一面的であることに気が付きました。このように、自分が関心を持つ社会問題に対して複眼的な見方ができるようになるのも、社会学の魅力です。

社会学主専攻には、様々なテーマを扱う先生方がいらっしゃり、多方面の社会問題を社会的に学ぶことができます。あなたが自分の身の回りの社会問題に抱く違和感や疑問を、社会学主専攻で明らかにできるかもしれません。

法学主専攻 × IQBAL MD MUMIT

「法律」を学ぶといってもさまざまな切り口があります。わかりやすいものでいうと、六法の条文を学ぶのがそれに当たるといいます。しかし、条文を学ぶことだけが法律を学ぶことではありません。条文や判例などから、背後にある社会問題を汲み取ることこそが、法律を学ぶことの醍醐味だと私は思います。例えば、近年、少年法の厳罰化の議論があります。これは、厳罰化により、少年犯罪の抑止効果が期待できることが前提とされる議論でしょう。しかし、そもそも厳罰化する必要があるほど少年法は厳しさの欠けたものなのでしょうか。不起訴とされることもある成人の犯罪の場合とは異なり、14歳以上の少年が罪を犯した場合、原則として全ての事件が家庭裁判所に送致され、審議されます。家庭裁判所での判断により、少年の今後が左右される仕組みになっています。少年は、重大な罪を犯したと判断された場合にはそもそも成人と同じ刑事裁判を受けることになります。また、社会復帰に向けた更生・教育が行われる少年院に送致されることもあります。このように、条文の内容だけをみて少年法は決してやさしいものではないのです。

ここまでは法律についての話でしたが、少年が罪を犯すのは刑罰がゆるいからなのでしょうか。社会学の観点から少年犯罪を見ますと、近年、少年犯罪自体が減少傾向にあります。また、少年が犯罪や自殺などの逸脱行為を起こす背景には家庭環境・所属している集団からの離脱など、さまざまな要因があります。社会の課題を解決する手段の一つとして法律がありますが、課題を根本的に解決するためには、幅広い教養を身につけて、異なる専門分野の知見を結ぶ必要があります。条文から読み取れる社会の課題を、政治・経済・社会学の観点から、多角的に探求できることが社会学類・法学主専攻の魅力です。その楽しさをぜひ一緒に感じましょう。

政治学主専攻 × 北沢 修

政治という分野は日常意識することはない、あるいは意図的に意識しないようにされる傾向があるように思われます。しかし、私たちの生活は国内政治が定める予算や法律等の政策を基礎として成立しており、政治無しには生活が立ちゆきません。

また国内に限らず、国際政治も欠くことはできません。グローバル化が進行した現在では、一国に生じた変化はとすれば世界全体に波及し、私たちの日常生活にも影響を与えます。

総じて言えば、現代社会に生きるのであれば好むと好まざるにかかわらず、政治と生活を切り離すことはできないでしょう。そのような生活の根幹をなす政治という営みを探求できる分野こそが、政治学主専攻であると私は考えています。

社会学類政治学主専攻は、「広く深く」学ぶことができる場所です。政治学のみならず法学・経済学・社会学等の授業を履修でき、多角的な視点から眼前の事象を分析する能力を身につけることができます。また3年次から始まる政治学主専攻のゼミは基本的に少人数で構成されるため、先生方は学生一人ひとりに対し手厚く指導をして下さるほか、学生間の距離も必然的に近くなります。ゼミで割り当てられる時間も多くなるため、積極的に議論に参加し自らの理解を深めていくこともできます。これは私大等の大規模なゼミにはない、政治学専攻の固有の強みと言えるでしょう。

現代は多種多様な価値観やニーズが入り乱れ、私たちの生きる世界は絶えずその在り方を変化させています。その中で政治学を学ぶことは、変化する世界で生き抜く視座を見つけることに繋がるはずで、これを読んでいる皆さんが、少しでも社会学類に興味を抱いたのであれば幸いです。

経済学主専攻 × 山崎 くるみ

社会学類で学ぶことができる社会科学は、研究対象が「人々の行動」であり、様々な社会問題を考えるうえで非常に有用です。1・2年次から専攻を絞る必要はなく、社会学、法学、政治学、経済学の4分野を幅広く学ぶことができます。4つの視点から人々の行動を考えることは、3年次に経済学主専攻を選択した後も、多角的なアプローチを手助けしてくれることになるでしょう。

皆さんは「経済学」と聞いて何を思い浮かべますか？私が高校生の時は、「お金」や「株」について学ぶ学問というイメージを持っていました。また「数学が苦手」という理由で何となく敬遠してしまっている人もいるかもしれません。

しかし、実際に学んでみると、その内容は多岐にわたっていることがわかります。例えば「最低賃金を導入すると社会にどのような影響を与えるか」といった社会的な問いについて、数式やグラフを用いて論理的に考えることができます。また、少子高齢化や過疎化が進む現代において、地方経済の現状や活性化について考える地域経済論はとて魅力的です。こうした地域経済について考える場合、数学が苦手という人でも、問題の背景や地域の歴史を理解しつつ、その現状を分析することが可能です。

私は現在、計量経済学と、企業経営や地域経済を学ぶゼミに所属しています。少人数を特徴とするゼミでは、学生同士や先生との距離が近く、様々な議論を通じて自分の理解を深めることができます。現代の経済や経営に関する様々な問題を考える機会が与えられており、自ら主体的に考えるなかで、多角的な視点を獲得することができるのが魅力です。

皆さんもぜひ、社会学類で経済学を学んでみませんか。



活躍する学生【林 倚伊】

私の興味関心は入学時から変わり続けています。興味関心の変化によって、自分の考えや行動も変わりました。特に大きな変化があったのは2年生の1年間でした。授業をきっかけに、人の価値観を尊重できる人でありたい、自分と異なる他者と関わり、常に刺激を受ける環境にいたいと思うようになりました。

私は今年から国際交流サークルCASAに入り、留学生との交流を通じて、自分の視野を広げています。また、交流を通して、私は感情的になりやすく、前後のロジックが繋がっていない意見を言うてしまうことがよくあることに気づきました。論理的思考ができる人、自分の意見をはっきり伝えることのできる人になるために、国際的なビジネスを扱い、模擬仲裁や模擬交渉を行う大会である大学対抗交渉コンペティションに参加することを決めました。現在はその大会に向けての勉強に励んでいます。

興味関心の変化で、自分の行動も変えていくことによって、自分の理想や大事にしている価値観などがだんだん見えてきて、自分について知る機会になりました。

18歳から22歳までの4年間は、興味関心・やりたいことの変化の先を見つけていくための時間、自分の「核」を探る良いタイミングだと思います。社会学類で、様々な分野、様々な人と触れ合い、自分の「核」を探していきたいと思っています。



活躍する学生【車谷 郁実】

私は筑波大学新聞で編集長を務めています。さまざまな人の「隠れた思い」を伝えたいと、これまでに、来日できていない留学生の現状、コロナ禍での課外活動団体の活動状況など、多様な話題取材してきました。どんなに下調べをしても、毎回新しい発見があるのがこの取材。吹奏楽団の定期演奏会への取材では、感染対策のため、全体で合わせることで5時間しかなかったことや学生最後の演奏会になるかもしれないという思いで参加していた団員がいたことなどを聞きました。取材を通して、相手の隠れた思いに触れた瞬間は記者としてやりがいを感じます。

こうした瞬間は社会学主専攻で学ぶ中でも訪れることがあります。「この地域イベントはなぜ盛り上がっていないのか」「この映画のシーンにはどのような意図があるのか」、そうした「なぜ」を深掘りしていくと、一見ただけでは分からなかった人々の関わり合いや社会課題が見えてくることもあるのです。過去の研究や文献から新しい発見や法則性を見つけることができることもあります。小さな疑問を追究し、問題の核を見つけていく過程はとて楽しいものです。皆さんも社会学類で新しい「楽しさ」を見つけませんか。



海外留学の勧め【川内 悠生】

私は2年生の途中から1年弱ほど語学留学をしました。留学先では様々な国籍の学生と交流しながら日常会話や資格の勉強をし、さらに地域のイベントや旅行、ホームステイなどの経験を通して学内では出会えない人々とも交流することができました。私はこの留学を通して、単なる語学力の向上だけでなく、多様な文化や価値観を学んだのと同時に、多くの人が日本の魅力について語ってくれたことで、日本の良さを改めて実感しました。

そのなかで、特に地方にその魅力があると感じたことから、帰国後は経済学主専攻に進み、主に地域経済を学ぶなかで、日本の地域ビジネスや地方創生に関心を持つようになりました。そのため今後は、日本の魅力がたくさん詰まったローカル地域と、留学の経験を活かすことができるグローバルの両方を舞台として、日本と世界で活躍することが私の目標です。

社会学類は、経済学をはじめとする社会科学の様々な学問に触れることができる点に魅力があります。この学類で学びながら、さらに新たな気づきや価値観を形成する1つの手段として、私は留学をオススメします。



編入学の勧め【富田 もえ】

もしあなたの研究したいことが、別の大学で実現できるとしたらどうしますか？筑波大学には、他大学や高専で取得した単位が認定され、3年次に編入できる編入学という制度が設けられています。私は、その編入学制度を利用して、他大学から社会学類に3年次編入しました。

編入学する前の大学では、法学を中心に学んでいました。しかし、私は国際政治学に興味を持ち始め、専門的に研究したいと思うようになります。その中で、社会学類の政治学主専攻のこの教授のもとで学びたい！という意思が大きくなり、編入学試験を受験することを決めました。それに加え、社会学類は、他専攻や他学類の授業も積極的に取ることができるという魅力があります。実際、入学してからは、興味のある分野のみならず、理系やその他あらゆる分野の授業を通して新たな考え方に刺激を受け、自分の世界がどんどん広がっていくような有意義な毎日を送っています。また、編入生であってもサークルやゼミなどを通して多くの友人に出会うことができます。特に少数先鋭のゼミでは、尊敬する先生や先輩方、同輩たちにも恵まれとても充実した活動を行なっています。

ぜひみなさんも、変化を恐れず一歩を踏み出し、社会学類で学際的な学びを深めませんか？

社会学主専攻卒



千葉県庁
椎名 美季

私が社会学類の社会学主専攻を目指したのは、大学説明会に参加したときに「よくわからないけど、社会学ってなんでもテーマになっておもしろそう!」と思ったことがきっかけです。

実際に入学すると、講義はどれもおもしろいのですが、研究対象の多様さや内容の複雑さに、勉強するほど社会学がわからなくなってきました。

2年生からは、複数のゼミに所属し、文献の解釈を検討したり、約50年前の社会調査のデータを使って統計的な再分析を行ったり、起業家にインタビューしたり…知識を吸収するだけでなく、どのように分析す

るか、記述するか、先生方に丁寧に指導していただきました。また、ゼミ内で活発に議論する中で、自分が研究したいことが明らかになっていき、卒業論文では学童保育をテーマにしました。

卒業後は、地元の千葉県庁に入庁し、現在は県立病院の予算や経営に関する仕事をしています。社会学に全く関係のない仕事をしているように思うかもしれませんが、大学で勉強した分析の知識やスキルは日々の業務に役立っています。また、地方公務員は部署異動が多く、福祉関係からインフラ整備、観光誘致など幅広い分野の業務につく可能性があるため、自分が持っている常識にとらわれることなく、様々な立場の人のことを考えられる柔軟性が重要です。そして、それはまさに社会学類でトレーニングしてきたことだと思っています。

社会学に興味のある皆さんの中には、卒業後の進路がイメージしにくいという方もいらっしゃるかもしれません。しかし、皆さんの仕事や生活に役に立ち、自分自身の人生を豊かにする勉強ができる私は思います。自分の興味に素直に、ぜひチャレンジしてみてください。

法学主専攻卒



三菱UFJリサーチ&
コンサルティング
株式会社
森 春樹

社会学類の門を叩いた当時、自身が周囲の環境で悩んだ時期があったことから、「困っている人を助けたい。そのために弁護士になりたい」と考えていました。一方で「法学以外の分野もおもしろそうだし、役に立つかも」とも思っていました。

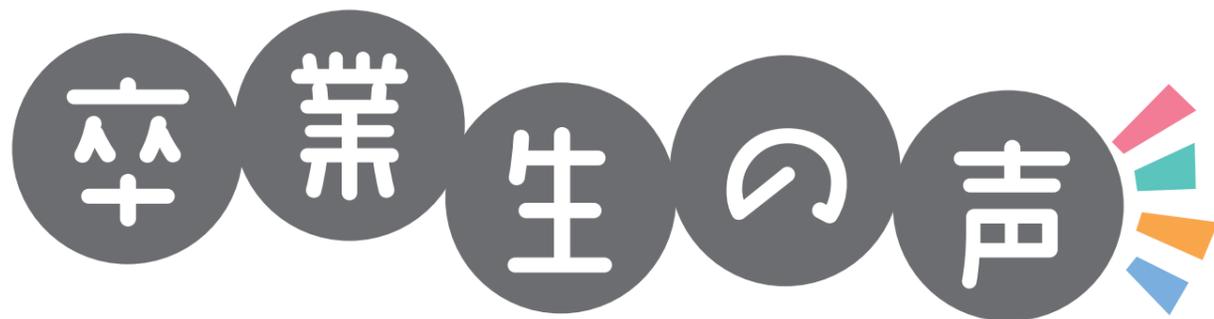
そこで、私は、積極的に社会学・政治学・経済学の科目を履修し、法学をベースとしつつも、様々な観点から物事を考えられるよう心掛けていました。

法学以外の3分野の学問を学ぶ中で、社会的に困っている人が困っているのは、個人の問題ではなく、社会的・経済的なルールが原因で

ある場合や、困っている人を救えない制度のためであることが多いと気付きました。そのとき、私は、個別的・事後的に困っている人に手を差し伸べる立場にある法曹よりも、幅広く・予防的に社会的に困難な立場にある人々のために働く公務員という職業に魅力を感じました。

そうした経緯から、私は、筑波大学を卒業後、東京大学公共政策大学院を経て、国家公務員として内閣府に就職しました。内閣府では、新聞の一面を飾るような政策に携わることができ、やりがいと社会の役に立っている感覚をぼんやりとではあるものの得ることができました。他方、より現場の近くで仕事をし、自ら足を運んで政策をつくっていきたいという思いが徐々に強くなりました。その後転職をし、現在の会社では、国・自治体向けに調査・研究を行っています。

現在の仕事では、社会学類で学んだ4分野の学問の知識を使わない日はなく、社会学類で横断的に学んだことを基礎に、自治体の現場の思いを汲んだ国の制度をつくること、また、国の政策意図を自治体において実現することに取り組み、誰もが自らの生き方を選べる社会を実現すべく働いています。



社会学類の先輩達は当時どんなことを考え、
どんな学生生活を送っていたのか?
今は卒業し就職した先輩達に聞いてみました。

政治学主専攻卒



株式会社TBSテレビ
北原 太一

社会学類での学生生活は私を大きく成長させた環境でした。政治学主専攻はユニークで魅力的な先生が多く、どの授業も新鮮で刺激的でした。社会学類は学生の数に対して教授が多いため、学生と教師の距離感が非常に近く、学問的な議論からプライベートな話まで気軽に話せました。勉強だけでなく私生活も十分楽しめるのが魅力です。

また筑波大学には半年間もしくは一年間提携している大学に交換留学できる制度があります。私はこの制度を利用し、2019年の夏から香港中文大学に留学しました。当時の香港ではデモが頻発しており、留学先のキャンパス内でも本来、大学の敷地内に入れないはずの

警察と学生との間で大規模な衝突が起きたり、治安の悪化により強制帰国になるなど困難だらけの留学生活でした。しかし、社会学類の先生方や学生支援室の方々が安心して留学できるようにサポートしていただき、安全に帰国することが出来ました。帰国してからは香港で経験してきたことをゼミの仲間や教授と共に徹底的に議論し、そして自らも卒業論文を通じて複雑な香港の政治システムや歴史について理解することができました。

この香港での経験と、政治学主専攻での学びをきっかけに報道機関に対し興味を持ち、更に帰国した際に成田空港で取材を受けたことも相まって、現在の職場であるTBSテレビにて働くことを決意しました。社会学類で学んだことは日々社会で起きていることを視聴者に届ける現在の仕事で大いに生かされています。

筑波大学・社会学類で学ぶ四年間は皆さんを必ずやレベルアップさせ、社会に通用する人材にしてくれることを私は皆さんに保証したいです。

経済学主専攻卒



野村不動産株式会社
開発企画本部
井上 紗葉子

大学受験に向けて、私も皆さんと同じように、「本当に学びたい学問って何だろう?」と考えていました。社会に関する色々な分野に興味があった私は、「実際に学んでみると1つに絞りにくい!」と考え、入学段階では専攻を1つに絞る必要のない筑波大学の社会学類に足を踏み入れました。

その言葉通り、1、2年次は社会学類だけでなく他学類の授業も受講し、様々な分野の基礎を幅広く学びました。私は最終的に経済学主専攻を選択しましたが、様々な分野に触れることができたことで、社会で起きている現象を色々な視点から見て考えられるようになった

ことは、私にとって貴重な財産となっています。

3、4年次には少人数の経済学ゼミに所属し、学生間で熱く議論したり、先生方に率直に質問しながら自分の考えを明確にするなどの経験を通して、自分が明らかにしたい社会の現象や問題について主体的に学ぶことができました。特に私は人間や社会など抽象的ではっきりしないものを、統計データや数字を当てはめることでパターン化して具体的に説明できるようになる、という点で経済学の面白さを感じました。

実際に社会に出た今、在学中に学んだ異なる視点から物事の本質をとらえる姿勢や、数字と人の動きを関連付けて考える姿勢について、改めてその重要性を実感しています。そして、社会学類でそうした力を培うことができたことに、とても感謝しています。

最後になりますが、大学生活は初めての1人暮らしやサークル活動など、たくさんの楽しいことが待ち受けています。そのなかで、成長の場として社会学類での学びを選択し、皆さんの大学生活がより実りあるものになることを、心から期待しています!

卒業生の進路

最近の傾向でみると、就職する者が約7割に達し、その就職先は多岐にわたります。特に金融、メディア・情報通信、サービスならびに製造業分野に強く、多くの人材を輩出してきました。また公務員の道を選ぶ者も多くいます。一方、大学院進学や司法試験・公認会計士などの資格試験の準備をする者もあり、将来、研究職や高度な専門職につく卒業生も少なくありません。

最近の主な就職・進学先 (平成26～令和3年度)

銀行・信託業
三井住友銀行/みずほ銀行/ゆうちょ銀行/りそな銀行/常陽銀行/静岡銀行/山口銀行/阿波銀行/秋田銀行/ジャパンネット銀行/中国銀行
あおぞら銀行/三菱UFJ信託銀行/野村信託銀行/東北銀行/茨城県信用組合/商工組合中央金庫/全国信用金庫協会/三菱UFJニコス
みずほフィナンシャルグループ/ジェシーピー/りそなグループ/テレコムクレジット/イオンクレジットサービス など

保険・証券業
第一生命保険/日本生命保険/住友生命保険/明治田舎生命保険/ソニー生命保険/アフラック生命保険/オリックス生命保険/AIG損害保険
東京海上日動火災保険/損害保険ジャパン日本興亜/かんぽ生命保険/大同生命保険/全国農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会長野県本部/野村証券/みずほ証券/大和証券/SMBC日興証券 など

新聞・放送業・出版業
朝日新聞/読売新聞/日本経済新聞/毎日新聞/西日本新聞/産業経済新聞/北日本新聞/福岡放送/日本放送協会(NHK)/TBSテレビ
新潮社/下野新聞社/日本経済新聞社/時事通信社/イッツ・コミュニケーションズ/紀伊国屋書店 など

宿泊・生活関連サービス・娯楽業
東映/星野リゾート/キョードー東北/ニューオータニ/ホテルオークラ東京/サンライズプロモーション東京/アデコ/日本中央競馬会
中央職業能力開発協会 など

製造・電力業
日立製作所/ソニー/三菱電機/三菱重工業/富士重工業/スズキ/SUBARU/ヤマハ/日立メディカルコンピュータ/日立ハイテクノロジーズ
東洋製罐/日本ハム/丸美屋食品/デサント/テルモ/日立金属/住友金属鉱山/九州電力/北陸電力/プリズトン/ミットヨ など

運輸・同サービス業
日本郵船/日本航空/全日空/エイチ・アイ・エス/JTB/東日本高速道路/東日本旅客鉄道(JR東日本) 中日本高速道路/日鐵物流 など

住宅・建設業・不動産業
三菱地所/鹿島建設/三井ホーム/積水ハウス/大東建託/ポラス/JPハイテック/日比谷総合設備/東急不動産/東京建物/森ビル
コスモスインシア/フージャースコーポレーション/ホンダ開発/茨城セキスイハイム/野村不動産 など

調査・コンサルティング・広告代理店
アクセンチュア/野村総合研究所/富士通総研/大和総研/博報堂/電通テック/電通デジタル/船井総合研究所/キャップジェミニ/富士経済
オプト/ジェイエイシークルレメント/アビームコンサルティング/NTTデータ・フィナンシャル・ソリューション/マクロミル
ビジネスコンサルタント/デロイトトーマツコンサルティング/マネジメントソリューションズ リヴァンプ など

商社・小売業
住友商事/丸紅/三菱商事/パッケージング/三菱商事マシナリ/日新商事/日立金属商事/JX金属商事/イオンリテール/協栄産業/ローソン
ニトリ/昭和シェル石油/コカ・コーラボトラーズジャパン/日本マクドナルド/三菱マテリアル/伊藤忠商事/日本たばこ産業/内田洋行/ベシア
花里企画/青山商事 など

国家公務員
総務省/経済産業省/国土交通省/農林水産省/外務省/防衛装備庁/警察庁/厚生労働省/人事院/日本郵便/法務省入国管理局
さいたま地方裁判所/東京高裁管轄裁判所/長野地方裁判所/国立国会図書館/東京国税局/横浜税関/国立文化財機構 など

情報・通信業
KDDI/ソフトバンク/日立ソリューションズ/NTTデータ アイ/第一生命情報システム/富士通/共同通信社/ジーシーシー/オービック
楽天グループ/ヒューマンインタラクティブテック/ロジック/都築電気/Fringe81/インフォテック・サービス/Works Human intelligence など

地方公務員
●都道府県庁: 東京/茨城/埼玉/静岡/群馬/埼玉/千葉/大阪/長野 など
●市役所: 名古屋/横浜/さいたま/つくば/千葉/川口/川崎/佐野/所沢/葛飾区 など
●警察本部: 警視庁/茨城 など

教育研究機関・独立行政法人・教育サービス
横浜国立大学/千葉大学/宇都宮大学/高エネルギー加速器研究機構/海洋研究開発機構/科学技術振興機構/日本原子力研究開発機構
国立印刷局/労働者健康安全機構東京労災病院/高齢・障害・求職者雇用支援機構/日本司法支援センター/図書館流通センター
早稲田アカデミー/学研エデュケーショナル/茨進 など

業界団体等
日本自動車連盟/日本医師会/青年海外協力協会 など

進学(大学院)
筑波大学/東京大学/東北大学/一橋大学/京都大学/九州大学/大阪大学/神戸大学/名古屋大学/早稲田大学/慶應義塾大学/ハワイ大学 など

令和3年度 【卒業生 91名(英語プログラム 8名含む)】



企業就職者(51名)の内訳

A	B	C	D	E	F	G
A 金融・保険業 25.5% 13名	B 運輸・通信業 7.8% 4名	C サービス業 39.2% 20名	D 製造業 9.8% 5名	E 卸売・小売業・飲食店 11.8% 6名	F 不動産業・物品賃貸業 3.9% 2名	G 建設業 2.0% 1名

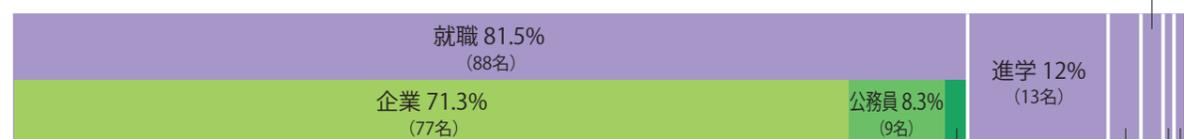
令和2年度 【卒業生 99名(英語プログラム 4名含む)】



企業就職者(59名)の内訳

A	B	C	D	E	F	G	H
A 金融・保険業 28.8% 17名	B 運輸・通信業 5.1% 3名	C サービス業 38.9% 23名	D 製造業 13.6% 8名	E 卸売・小売業・飲食店 8.5% 5名	F 不動産業・物品賃貸業 1.7% 1名	G 建設業 1.7% 1名	H 電気・ガス・熱供給・水道業 1.7% 1名

令和1年度 【卒業生 108名(英語プログラム 6名含む)】



企業就職者(77名)の内訳

A	B	C	D	E	F	G
A 金融・保険業 15.6% 12名	B 運輸・通信業 7.8% 6名	C サービス業 50.6% 39名	D 製造業 9.1% 7名	E 卸売・小売業・飲食店 9.1% 7名	F 不動産業・物品賃貸業 5.2% 4名	G 建設業 2.6% 2名



宿舎に入居している学生を中心として、毎年5月末に開催される宿舎祭。参加の充実感120%。



※2019年度以前に撮影された写真を含んでいます。
新入生がキャンパスを飛び出して、アメリカンセンターJapanを訪れた時のものです。



フレッシュマン・セミナーで、サイバーダイナミクススタジオに出かけ、世界初のサイボーグ型ロボット「ロボットスーツHAL.AN」を体験した時のひとコマです。



主に社会学類生で構成されるサークルの桐政会では、社会・政治問題を熱く議論します。

「社学生」の

生活

Campus Life



社会学OB/OG等を招いて毎年実施している就活相談会です。社会で活躍する先輩から貴重な意見を気軽に聴けるイベントで熱気があります。



11月に行われる学園祭「雙峰祭」の様子です。一般のお客さんとサークルや学類の屋台で賑わっています。毎年大変盛り上がる筑波大学最大のイベントです。

新入生が入学後スムーズに社会学類になじめるように、新歓イベントや先生との立食会が楽しくにぎやかに開催されます。期待してください！



社会調査実習で福島の水族館へ出かけて放射線測定イベントに参加しました。キャンパスを飛び出して行う学類の実習や工場見学は楽しいですよ！



入学案内

入学定員 1 学年 80 名 / 編入 10 名

1	推薦入試	募集人員 16 名 試験時期 11 月下旬 試験科目 小論文および面接
	2	一般選抜
3	編入学試験	募集人員 10 名 試験時期 11 月下旬 試験科目 各専攻分野の専門科目、外国語および面接
	問い合わせ先	筑波大学 教育推進部 入試課 Tel. 029-853-6007 なお、募集要項の発表は、毎年9月下旬です。 ※詳細は以下のURLまで http://www.tsukuba.ac.jp/general/index.html http://www.tsukuba.ac.jp/admission/index.html

注意) 以上は、2022年6月現在の情報です。感染症流行の状況により変更が生じる可能性があります。今後の変更については、筑波大学のHPなどで公表いたしますので、必ずご確認ください。



筑波大学社会学類案内誌 社会学類への招待

2022年7月1日 初版一刷発行 禁無断転載

編集委員 学類長: 明石 純一
社会学類広報委員: 森 直人(委員長)、平沢 照雄、関 能徳、蔡 芸琦
企画・編集 社会学類広報委員会
デザイン 松澤 康行
写真 小沼 涉
発行 筑波大学社会・国際学群社会学類
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1
<http://shakai.tsukuba.ac.jp/>
印刷・製本 株式会社いなも印刷

新型コロナウイルス感染予防について
掲載されているマスク未着用の人物撮影は、新型コロナウイルス感染予防を施しながら撮影しております